

(注) 事業債の発行条件は昨年12月24日の起債会において次のように改訂され、1月起債分から実施されることとなった。

事業債の発行条件(カッコ内は改訂前との比較)				
	A格	A'格	B格	C格
表面利率(%)	7.4	7.4	7.4	7.6
	( — )	( — )	( — )	( — )
発行価格(円)	99.50	99.25	99.00	99.25
	(+ 1.00)	(+ 1.25)	(+ 1.25)	(+ 1.25)
応募者利回り(%)	7.508	7.563	7.619	7.765
	(△ 0.222)	(△ 0.279)	(△ 0.280)	(△ 0.281)

12月の株式投信についてみると、月中元本純増額は解約・償還の増加から178億円と高水準の前月(196億円)には及ばなかったものの引き続き順調な増加を示した。この結果、12月末の残存元本は9,008億円と41年5月末以来5年7か月ぶりに9,000億円台を回復した。一方、運用面では、円切上げ後の株価高騰場面での食い売りを主因に月中92億円の大幅売り越しとなった。

12月の公社債投信は、ボーナス期に当たり個人投資家筋の需要増を中心に設定が384億円と大幅に増加したことから、月中元本増加額は244億円と前月(80億円)、前年同月(163億円)を大きく上回った。

## 実体経済の動向

### ◇出荷の伸びは生産をやや上回る

(生産——大勢は弱含み横ばい)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は、11月増加(+2.0%)のあと、12月(速報)は-0.3%の小幅減少となった(原計数の前年同月比+3.5%)。不況カルテル結成や生産調整強化等生産抑制の動きを映じて、このところやや弱含み横ばいとなっている(3か月移動平均値の前月比、9月-0.3%、10月+0.5%、11月-0.4%)。

特殊分類別にみると、生産財(-0.1%、鉄鋼、非鉄、繊維が中心)、非耐久消費財(-1.9%、灯油、洗剤等が中心)が落ち込んでいるほか、とくに前月大幅増産となった資本財輸送機械の反動減(乗用車、中・大型トラックが中心)が目だった。また、設備投資の停滞から一般資本財は化学機械、工作機械等の不振を主因に減少(-2.8%)している。一方、耐久消費財は、カラーテレビ、ラジオを中心に増勢を持続した(+3.7%)。

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年	46年				46年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10月	11月	12月	
鉱工業指数	220.2	224.5	221.8	230.0	226.7	231.3	230.6	
前期(月)比	-0.6	2.0	-1.2	3.7	-2.8	2.0	-0.3	
前年同期(月)比	10.8	8.7	2.9	4.1	2.9	6.1	3.5	
投資財	1.6	4.5	-4.3	3.0	-4.9	2.9	-2.2	
資本財	2.2	5.5	-5.6	3.1	-6.6	4.1	-3.4	
同(輸送機械を除く)	2.7	6.1	-8.8	1.1	-6.7	3.1	-2.8	
輸送機械	2.3	4.4	3.0	7.5	-7.0	5.9	—	
建設資材	-0.1	1.3	-0.4	2.7	1.2	-0.1	0.7	
消費財	-2.9	1.2	2.3	3.3	-0.8	2.1	1.9	
耐久消費財	-3.6	0.8	1.2	8.1	1.4	0.8	3.7	
非耐久消費財	-2.2	2.1	2.4	-0.3	-2.4	3.2	-1.9	
生産財	-0.4	0	-0.8	4.6	-2.0	1.1	-0.1	

(注) 1. 通産省調べ、46年12月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

## (出荷—生産を上回る伸び)

12月の鉱工業出荷(季節調整済み、前月比、速報)は、前月(+3.6%)に引き続き+1.9%と増勢を持続した。もっとも、3ヵ月移動平均値の前月比では9月-1.2%のあと、10月+1.0%、11月横ばいとなるが、このところわずかながら生産を上回る伸びを示している(原計数の前年同月比+5.4%)。

12月における増加の主因は、年末需要好調のカラーテレビやラジオ、エアコンディショナを中心とする耐久消費財(+6.9%)および船舶を中心とする資本財・輸送機械であるが、生産財(+1.4%)も鉄鋼、非鉄、紙・パルプ等市況商品の出荷増から増勢を持続した。一方、一般資本財(-3.1%)、非耐久消費財(-0.7%)は前月著増の反動もあって減少した。

## 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年	46年				46年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10月	11月	12月	
鉱工業指 数	209.6	214.5	215.5	220.8	213.7	221.3	225.5	
前期(月)比	-0.6	2.3	0.5	2.5	-5.4	3.6	1.9	
前年同期(月)比	8.2	6.0	4.9	4.7	1.9	7.2	5.4	
投資財	2.3	2.1	-0.6	2.0	-10.1	4.5	1.0	
資本財	3.2	-4.2	-1.0	1.9	-13.2	5.7	0.8	
同(輸送機械を除く)	-0.3	2.8	-8.2	4.0	-11.1	6.3	-3.1	
輸送機械	9.3	-2.6	13.4	-1.9	-16.7	5.8	—	
建設資材	0.2	-0.3	0.9	2.3	0.5	0.9	1.6	
消費財	-3.4	4.1	3.3	1.6	-2.4	4.6	3.6	
耐久消費財	-3.2	2.0	7.8	5.0	-2.7	2.5	6.9	
非耐久消費財	-3.2	4.8	0.5	0.2	-2.6	5.9	-0.7	
生産財	-0.6	0.4	-0.2	3.0	-3.2	2.3	1.4	

(注) 1. 通産省調べ、46年12月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

## (製品在庫—12月は微減)

12月の生産者製品在庫(季節調整済み、前月比、速報)は、-0.1%と3ヵ月ぶりの減少を示した(3ヵ月移動平均値の前月比は9月+1.2%のあと、10月+0.8%、11月+0.9%)。原計数の前年同月比でも+6.3%と伸び率はかなり鈍化している(11月+7.8%、ピークは46年2月+29.4%)。

特殊分類別では、生産財が鉄鋼、非鉄、化学製

## 鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	45年	46年(期別)				46年(月別)		
	12月	3月	6月	9月	10月	11月	12月	
鉱工業指 数	233.1	238.1	238.7	238.8	244.4	245.3	245.1	
前期(月)末比	10.2	2.1	0.3	0	2.3	0.4	-0.1	
前年同期(月)末比	25.7	27.6	19.3	12.4	9.6	7.8	6.3	
製品在庫率指 数	108.4	107.0	109.4	105.7	114.4	110.8	108.7	
投資財	15.3	9.3	8.7	-2.7	1.7	0.5	-1.8	
資本財	22.2	11.8	13.9	-6.1	1.6	-0.7	-3.0	
同(輸送機械を除く)	20.6	10.8	12.0	-2.5	2.7	-2.6	-5.1	
輸送機械	26.4	15.6	25.0	-21.8	2.1	6.2	—	
建設資材	5.4	5.9	1.3	3.0	1.2	2.2	1.0	
消費財	9.6	-3.2	-3.4	-3.7	2.5	0.7	0.5	
耐久消費財	0.8	0.1	-10.1	-13.2	4.2	1.2	0.3	
非耐久消費財	15.8	-3.5	4.2	4.0	2.5	0.1	1.9	
生産財	7.6	5.7	-1.8	5.7	2.0	0.4	-0.4	

(注) 1. 通産省調べ、46年12月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

品を中心に-0.4%と減少、一般資本財(-5.1%)でも農業用機械等が大幅に減少した。非耐久消費財(+1.9%)はやや目立った増加を示したが、これは暖冬に伴う繊維二次製品、灯油の増加によるところが大きい。

以上のような動きから、製品在庫率指数は108.7と前月比2.1ポイントの続落を示した。

## (原材料在庫—12月は引き続き増加)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は11月微増(+0.5%)のあと、12月(速報)も+0.3%と増勢を保った。3ヵ月移動平均値の前月比で見れば、9月の大幅減少(-1.1%)のあと、10月横ばい、11月+0.1%とこのところやや下げ止まりぎみとなっている。

特殊分類別にみると、国産分が原油、パルプ材のほか、建設関連の砂利等素原材料の著増から+0.2%の増加を示したほか、輸入分も、11月大幅増加(+1.9%)のあと、+0.2%と微増した。業種別には、石油、窯業・土石、金属製品、繊維等の増加が目だつ一方、鉄鋼、非鉄、化学等では減少している。

この間、原材料在庫率指数は、原材料消費が非

## 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)			46年(月別)		
	6月	9月	12月	10月	11月	12月
在庫指数	190.3	188.7	189.1	187.5	188.5	189.1
前期(月)末比	2.9	-0.8	0.2	-0.6	0.5	0.3
国産分	-0.1	0.1	0.2	-0.2	0.2	0.2
素原材料	4.4	-3.8	3.6	-0.7	1.4	3.2
製品原材料	-1.8	0.8	-1.6	0	-0.8	-0.8
輸入分	8.7	-2.0	0.2	-1.9	1.9	0.2
素原材料	9.9	-1.7	-0.3	-2.0	1.8	0
在庫率指数	95.1	91.9	92.3	93.0	92.1	92.3
国産分	87.4	85.0	85.3	86.3	85.1	85.3
素原材料	123.2	118.0	118.6	118.2	115.2	118.6
製品原材料	81.7	79.6	78.8	81.2	79.6	78.8
輸入分	114.7	112.1	114.4	112.2	113.7	114.4
素原材料	115.7	113.1	114.9	112.5	114.3	114.9

(注) 通産省調べ、46年12月は速報。

鉄、金属製品、船舶等を中心に微増(+0.1%)にとどまったため、92.3と前月(92.1)比0.2ポイントの上昇を示した(11月は前月比-0.9ポイントの低下、なお、3か月移動平均後の在庫率指数は、9月92.3、10月92.3のあと11月92.5)。内容別に見ると、国産分の上昇が小幅にとどまった(11月85.1→12月85.3)反面、輸入分は、前月に引き続きかなりの上昇となっている(10月112.2→11月113.7→12月114.4)。

## (販売業者在庫——11月は反動減)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は、9月(+5.0%)、10月(+2.7%)と2か月連続大幅な増加のあと、11月(速報)は-6.5%と様変わりでの減少となった。品目別にみると、9、10月増加の主

## 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期末)			46年(月別)		
	3月	6月	9月	9月	10月	11月
総合指数	187.4	188.4	192.0	192.0	197.2	184.3
前期(月)末比	1.7	0.5	1.9	5.0	2.7	-6.5
素原材料	3.8	1.2	-3.4	-5.9	-3.2	-5.0
製品	1.9	0.5	2.1	5.5	3.1	-6.5

(注) 通産省調べ、46年11月は速報。

役を演じた自動車、非鉄の反動落ちが目だつほか、繊維原料も大幅続落となった。一方、需要期を控えたテレビ等民生用電気機器、石油製品等は増加している。

## (設備投資——停滞傾向持続)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、11月に事務用機器等の急増によりかなりの増加(+6.3%)を示したあと、12月(速報)は-3.1%の減少となった(10~12月では前期比-3.7%)。原計数の前年同月比でみても10月前年水準を割り込み、11月微増(+0.9%)にとどまったあと、12月は-8.4%と落込みが大きくなっている。12月の動きを品目別にみると、化学機械、工作機械、機械プレス等の不振が目だつ。

機械受注(船舶を除く)民需、季節調整済み、前月比)は、11月ほぼ横ばい(+0.5%)のあと、12月は+26.8%とかなりの増加を示した。しかし、10~12月を通してみると、前期比-29.4%と再び減少に転じており(7~9月+20.8%)、原計数の前年同月比でみても、12月は-4.1%と8月以降5か月連続して前年水準を下回っている。

12月の動きを業種別にみると、製造業が11月かなりの増加(+13.7%)のあと、自動車、化学、造船を中心に+5.1%と小幅ながら増勢を保つ一方、非製造業(船舶を除く)も電力の著増から+36.9

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	46年			46年		
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月
民需	2,307	2,734	2,283	1,890	1,635	3,323
	(-15.1)	(+18.5)	(-16.5)	(-25.6)	(-13.5)	(+103.3)
同(船舶を除く)	1,830	2,211	1,561	1,428	1,436	1,820
	(-22.3)	(+20.8)	(-29.4)	(-32.1)	(+0.5)	(+26.8)
製造業	1,105	966	671	604	687	722
	(-0.5)	(-12.6)	(-30.5)	(-42.7)	(+13.7)	(+5.1)
非製造業	1,203	1,747	1,718	1,363	1,000	2,791
	(-23.8)	(+45.3)	(-1.6)	(-4.4)	(-26.7)	(+179.2)
同(船舶を除く)	750	1,233	930	883	805	1,102
	(-40.8)	(+64.5)	(-24.6)	(-13.6)	(-8.8)	(+36.9)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

%と、5ヵ月ぶりに大幅増加を示した。なお、11月の機械受注残高(船舶を除く、季節調整済み、前月比)は、10月減少(-2.2%)のあと+0.6%とわずかながら増加となった(原計数の前年同月比+9.8%、10月+8.6%)。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、前月比)は、11月大幅増加(+30.1%)のあと、12月(速報)はその反動もあって-5.5%と再び減少した(原計数の前年同月比+29.0%、11月+32.1%)。なお、官公庁分も11月著増(+49.3%)のあと12月は-5.0%と減少したが、原計数の前年同月比では+43.8%と引き続き高水準に推移している(11月+80.7%)。

#### ◇商品市況は底固め気配

1月にはいつてからの商品市況をみると、合繊、石油製品(灯油)、化学品(基礎薬品類)は弱含みを続けたが、非鉄金属、セメント、紙、塩ビ、硫酸等が強含みないし下げ止まりを示し、底固めの気配が広がった。もっとも月後半には、11月央以来値上がりを続けてきた鋼板、条鋼類が騰勢頭打ちとなるなど、総じて商況の戻り足は一服状態となった。

このように底入れを示す品目がふえてきたのは、海外相場の上昇(非鉄金属等)や、不況カルテル結成などによる生産調整、在庫凍結等の市況対策による面が大きい。需要面では設備投資の停滞、関連業界での生産調整強化による需要減退から民間実需には依然として動意がみられない。このため流通段階等の在庫投資態度は依然慎重であり、11月末ごろから鉄鋼にみられた特約店の在庫補充買いの動きも1月央からは一服状態となっており、これが最近の商況足

踏みの背景となっている。しかし、総じてユーザー、流通段階の在庫水準はかなり低くなっており、また官公需が増加し、輸出もさほど落ち込んでいない状況などからみて、大勢として商況は大底を確認したように思われる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……1月央ごろまではほぼ全品種が値上がりが続けたものの、その後は亜鉛鉄板を除き総じて騰勢頭打ち商況となった。これは、不況カルテルによる減産や輸出の堅調を背景としてメーカー、大手商社が店売り量を大幅に削減しているものの、民間実需が不需要期入りもあって低調なため、特約店等末端流通段階でこれまでの在庫補充買いを控えるに至ったためである。

繊維……天然・化学繊維はそ毛糸が反発したが、綿糸、スフ糸、生糸は保合い圏内の小浮動に終始し、総じて一進一退を続けた。これは、在庫調整はほぼ一巡模様ながら、合繊糸等からの転紡、輸入増など供給圧迫懸念から、問屋・機屋筋

#### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

ウエイ ト	前 上 昇 率	比 率	最近の推移(前月(旬)比上昇率)						
			46年		47年		47年1月		
			11月 平均	12月 平均	11月	12月	上旬	中旬	下旬
総平均	100.0	+3.6	-0.7	-0.2	保合	保合	保合	+0.1	-0.1
食料品	15.7	+2.1	+3.9	保合	+0.2	-1.0	-0.6	-0.2	-0.2
繊維品	10.7	+5.8	-1.1	+0.2	+0.3	+0.4	+0.1	+0.5	+0.3
鉄鋼	9.7	+9.2	-8.6	-0.5	+0.8	+1.7	+0.9	+0.6	-0.2
非鉄金属	4.4	+3.1	-16.1	-0.5	-1.0	+0.3	-0.1	+0.5	+0.5
金属製品	3.8	+4.4	+0.5	-0.2	-0.2	保合	保合	保合	保合
機械器具	22.1	+1.5	+0.2	保合	+0.1	+0.1	+0.2	保合	-0.1
石油・石炭・同製品	5.6	+2.2	+11.3	-0.8	-1.0	-0.7	+0.2	-0.2	-0.4
木材・同製品	6.2	+4.4	-4.3	-0.4	-0.6	-0.3	+0.2	-0.2	-0.5
窯業製品	3.0	+4.3	+2.8	+0.3	保合	+0.2	+0.1	+0.1	-0.1
化学品	7.6	+0.6	同水準	保合	-0.2	-0.1	保合	-0.1	-0.1
紙・パルプ・同製品	3.4	+8.5	-0.8	-0.3	-0.3	-0.4	保合	保合	-0.3
雑品目	7.9	+3.5	+1.2	-0.1	+0.2	保合	-0.1	-0.1	保合
工業製品	82.0	+4.2	-0.7	-0.1	+0.1	+0.2	+0.2	+0.1	-0.1
うち大企業性	59.6	+3.0	-1.5	-0.1	保合	+0.3			
中小企業性	21.0	+7.1	+1.1	保合	+0.2	+0.1			
非工業製品	18.0	+1.4	-0.6	-0.3	-0.4	-1.0	-0.4	-0.3	-0.3

(注) 日本銀行調べ。

が依然慎重な糸手当て態度をくずしていないためである。一方、合繊糸は全体としては軟弱地合いを改めていないが、一部(ポリエステルステープル)では減産効果から底値感がみられはじめているようである。

非鉄金属……銅、亜鉛が値上がりし、鉛も下げ止まるなど、総じて安値訂正商状となった。これは、①海外相場の上昇のほか、②国内におけるメーカーの減産強化(銅)、在庫凍結(鉛)、③主力ユーザーの原料在庫調整の一巡(鉛)ないし若干の在庫補充買い(銅)、によるものである。

石油……灯油が暖房用需要の伸び悩みから一段と軟化したが、重油は公害規制による転換需要(A重油)、輸入減(C重油)などから総じて保合いに推移した。

セメント……出荷は一部建設工事の遅延もあって、盛り上がりに乏しくなっているが、メーカーが先行きいっそうの官公需増加を期待して引き続き売り腰を引き締めているため、市況は強保合いを続けている。

木材……外材は米国西海岸港湾ストの再開による供給先細り予想から問屋筋が売り腰を強化したため下げ止まりとなり、内地材でも実需は依然低調ながら、一部ユーザーの在庫補充買いもあって底値感が台頭しつつある。

化学品……合成樹脂では、塩ビは不況カルテル結成が好感され保合いとなったが、ポリエチレン、ポリプロピレンは自主減産を実施しているにもかかわらず、主力のフィルム、成形品需要の低迷から軟弱商状を続けた。基礎薬品でも硫酸は生産調整の奏功から下げ渋りとなったが、塩素、塩酸等は主力需要業界の減産の影響から弱基調を続けた。

紙……洋紙が不需求期入りにもかかわらず、メーカー筋の市況対策を背景に強含みに推移したほか、これまで軟弱地合いを続けてきた段ボール原紙でも、不況カルテル結成の見通しが固まってきたことから底入れ気配がみられはじめている。

砂糖……海外原糖相場の続騰を背景に上昇を続

けたが、月後半には糖価安定事業団の介入を主因に弱含みに転じた。

#### (卸売物価——12月は保合い)

卸売物価は、3か月連続下落後、12月は総平均で前月比保合いとなった。類別にみると、鉄鋼が不況カルテル結成等を背景に反騰を示したほか、食料品、繊維品も上昇、一方、石油・石炭・同製品、木材・同製品、非鉄金属は続落した。産業別では、工業製品が+0.1%と8月以来4か月ぶりに反発を示したのに対し、非工業製品は農林水産物、原油等鉱産物の値下がりから-0.4%と引き続き下落した。

この結果、46年平均では前年比-0.7%と、37年(-1.6%)以来9年ぶりの下落となった。年平均指数を類別にみると、石油・石炭・同製品、食料品は前年を上回る率の上昇を示したが、非鉄金属、鉄鋼、木材・同製品、繊維品がかなりの下落となり、機械器具、金属製品等も前年に比べ小幅の

#### 工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年比 上昇率			最近の推移 (前月比上昇率)		
		45 平 均	46 平 均	46 年 平 均	46年		
					10月	11月	12月
総平均	100.0	3.5	-0.8	-0.4	-0.1	保合	
食料品	12.6	+3.6	+3.8	+0.1	保合	+0.3	
天然および化学繊維	3.0	+9.2	-7.1	-1.7	+1.5	+1.3	
合成繊維	1.4	-4.0	-14.7	-2.8	-2.4	-0.9	
織物	2.8	+2.8	-3.6	+1.6	+0.3	保合	
繊維二次製品	3.2	+7.3	+3.9	-0.2	+0.1	-0.3	
普通鋼鋼材	7.2	+7.1	-8.9	-3.1	-1.7	+0.9	
特殊鋼鋼材その他	2.5	+7.3	-0.3	-0.3	-0.2	-0.1	
非鉄金属	4.4	+2.8	-12.9	-3.1	-0.7	-1.3	
金属製品	4.6	+3.4	-0.5	-0.2	-0.1	-0.3	
一般機械	10.4	+3.3	+1.6	-0.2	-0.1	+0.4	
輸送機械	8.3	同水準	+0.3	+0.3	保合	保合	
電気機械器具	9.1	+1.5	-1.6	-0.1	-0.1	-0.1	
石油・石炭製品	3.7	+2.9	+10.4	-0.4	-0.2	-0.4	
木材・同製品	5.0	+7.0	-2.6	-0.1	-0.5	-0.1	
窯業製品	3.4	+2.5	+2.2	保合	+0.6	+0.2	
化学品	7.8	-0.1	-0.7	保合	+0.1	-0.3	
紙・パルプ・同製品	4.5	+7.5	-0.5	+0.1	-0.3	-0.1	
雑品目	6.1	+3.5	+1.0	+0.3	保合	+0.5	

(注) 日本銀行調べ。

上昇にとどまった。産業別では、工業製品が大企業性製品の反落に加え、中小企業性製品の騰勢鈍化もあって下落、非工業製品も鉄・非鉄くず等の値下がり響いて下落した。

また、1月の卸売物価も前月に引き続き保合いとなった。類別にみると、鉄鋼が上げ足を速めたのをはじめ、繊維品も続騰し、これまで下落を続けた非鉄金属も海外相場高を映じて反騰したが、食料品が反落したほか、石油・石炭・同製品、木材・同製品、紙・パルプ・同製品、化学品も続落した。産業別では、工業製品が+0.2%と上昇を続けたのに対し、非工業製品は-1.0%と下落率が拡大した。

(工業製品生産者物価——12月は保合い)

工業製品生産者物価は、11月-0.1%の小幅下落のあと、12月は8月以来4か月ぶりに保合いとなった。なお46年平均では-0.8%と反落した。

12月の動きを類別にみると、非鉄金属、合成繊維、石油・石炭製品等が続落した反面、普通鋼鋼材、一般機械が反騰、天然および化学繊維、窯業製品が上昇を続けた。

(消費者物価——騰勢やや鈍化)

12月の全国消費者物価は、総合では11月大幅下落(前月比-1.0%)のあと保合い(前年同月比+4.6%)となった。農水畜産物が野菜(前月比-12.9%)、くだもの(同-4.8%)を中心に続落(同-1.1%)したが、反面サービスは個人サービス、外食を中心に若干上昇(同+0.5%)した。この間工業製品は繊維製品、耐久消費財が反落しており、総じて大企業性製品を中心に騰勢

鈍化傾向を続けた(同+0.2%)。

この結果、46年平均では総合で+6.1%と前年(+7.7%)に比べ上昇率はやや鈍化した。これは生鮮食料品を中心とする農水畜産物の上昇率鈍化によるところが大きく、工業製品、サービスは前年と同率の上昇となった。

一方、1月の東京消費者物価(速報)は、総合で前月比+0.1%と小幅ながら反騰したが、前年同月上昇率は+3.9%と引き続き低下した。品目別には、野菜、生鮮魚介が値上がりし、雑費も上昇を続けたが、住居、光熱は耐久消費財を中心とする家具什器や灯油の値上がりから騰勢一服ないし反落を示した。なお、季節商品を除く総合では前月比+0.1%(前年同月比+5.5%)となった。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年比 上昇率		最近の推移 (前月上昇率)			最近 月の 前年 同月 比	
		45 平 均	46 年 平 均	46年		47年 1月		
				11月	12月			
消 費 者 物 価	総 合	100.0	+7.2	+6.3	-0.9	保 合	+0.1	+3.9
	(季節商品を除く)	91.3	+6.1	+6.7	+0.5	+0.3	+0.1	+5.5
	食 料	40.3	+8.1	+6.6	-2.5	-0.4	保 合	+2.4
	住 居	11.8	+5.2	+3.7	+0.5	+0.3	保 合	+3.0
	光 熱	3.7	+0.8	+1.6	+0.1	-0.1	-0.3	+0.3
	被 服	12.4	+10.6	+9.2	+0.6	-0.3	+0.1	+6.1
	雑 費	31.8	+6.2	+6.3	+0.1	+0.2	+0.3	+5.8
	特 殊 分 類							
	農 水 畜 産 物	16.6	+9.2	+2.6	-8.0	-1.8		-2.1
	工 業 製 品	43.6	+7.0	+6.2	+0.5	+0.2		+4.4
	うち 大企業製品	19.8	-	+2.9	+0.1	+0.1		+1.8
	中小企業製品	23.8	-	+8.9	+0.6	+0.3		+6.6
	サ ー ビ ス	37.0	+6.2	+7.4	+0.6	+0.4		+7.3
全 国								
総 合	100.0	+7.7	+6.1	-1.0	保 合		+4.6	
(季節商品を除く)	91.0	+6.0	+6.4	+0.3	+0.4		+5.4	
上 人 口 の 5 都 府 以 上								
総 合	100.0	+7.7	+6.2	-1.1	保 合		+4.6	
(季節商品を除く)	91.0	+6.0	+6.5	+0.3	+0.5		+5.5	
輸 入 物 価								
輸 出		+4.8	+0.6	-0.6	-0.6		-0.7	
輸 入		+3.4	-0.2	-1.1	-1.3		-4.7	
交 易 条 件		+1.4	+0.7	+0.4	+0.7		+4.1	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は日本銀行調べ。  
2. 47年1月は速報。

## (輸出入物価—続落)

12月の輸出物価は、前月比-0.6%と続落(船舶を除くと-0.8%)した。これは繊維品(手袋、スカーフ、綿織物)が上昇したものの、金属・同製品(棒鋼、薄板、鋼管)、機械器具(通信ケーブル、人造黒鉛極)、化学製品(アクリロニトリル、ポリエチレン樹脂)等が、為替相場円高の影響を主因にかなりの下落を示したためである。この結果、46年平均では+0.6%と前年の上昇率(+4.8%)を大きく下回った。

12月の輸入物価も前月比-1.3%と大幅続落を示した。品目別には、繊維品(原綿、黄麻)が若干上昇したが、鉱物性燃料(原油、A重油)、食料品(魚粉、とうもろこし)、雑品目(ラワン材、大豆)等が為替相場円高のほか、フレート安、増収による産地安などから大幅に下落した。

なお、46年平均では-0.2%と42年(-1.1%)以来4年ぶりの下落となった。

この結果、12月の交易条件指数(105.7、40年=100)は前月比0.7ポイントの改善となり(前月は0.4ポイントの改善)、46年平均でも前年比0.7ポイントの改善となった。

## ◇国際収支の黒字は引き続き拡大

12月の国際収支は総合で316百万ドルの黒字(前月271百万ドル)と、引き続き黒字幅を拡大した。これは主として貿易収支が、季節的事情もあって1,172百万ドルと既往最高の黒字(前月636百万ドル)を記録したためである。この間、長期資本収支は対外直接投資の集中や対日証券投資の流出から既往最高の325百万ドルの払超(前月同295百万ドル)となり、短期資本収支等も輸出前受け金の引落としがかなりの額に上ったことなどから、

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	46 年			46 年			45 12 年 月
	4~6月	7~9月	10~12月	10月	11月	12月	
経常収支	1,292	2,127	2,029	571	474	984	561
貿易収支	1,778	2,516	2,535	727	636	1,172	744
輸出	5,765	6,261	6,692	2,084	2,031	2,577	2,129
輸入	3,987	3,745	4,157	1,357	1,395	1,405	1,385
貿易外収支	△ 433	△ 354	△ 420	△ 138	△ 150	△ 132	△ 153
移転収支	△ 53	△ 35	△ 86	△ 18	△ 12	△ 56	△ 30
長期資本収支	177	△ 304	△ 840	△ 220	△ 295	△ 325	△ 197
本邦資本	△ 445	△ 507	△ 716	△ 186	△ 260	△ 270	△ 213
外国資本	622	203	△ 124	△ 34	△ 35	△ 55	16
基礎的収支	1,469 ( 1,548)	1,823 ( 1,517)	1,189 ( 843)	351 ( 302)	179 ( 280)	659 ( 261)	364 ( 31)
短期資本収支	660	1,991	211	△ 11	120	102	54
誤差脱漏	159	246	△ 680	△ 207	△ 28	△ 445	△ 24
総合収支	2,288	4,060	720	133	271	316	394
金融勘定 外貨準備 増減 その他	2,288 2,141 147	4,060 5,785 △ 1,725	720 1,851 △ 1,131	133 714 △ 581	271 738 △ 467	316 399 △ 83	394 412 △ 18
外貨準備高	7,599	13,384	15,235	14,098	14,836	15,235	4,399
為銀対外 ポシシヨ	1,162	△ 348	△ 1,471	△ 920	△ 1,404	△ 1,471	1,060

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

## 輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 収 支	輸 出	輸 入	信 用 状	認 証	承 認
46年 4～6月	1,936 (+ 6.5)	1,314 (+ 0.3)	622	1,971 (+ 5.5)	1,653 (+ 0.9)	1,681 (+ 10.0)	2,100 (+ 8.2)	1,545 (- 1.0)
7～9月	2,012 (+ 3.9)	1,267 (- 3.6)	745	2,039 (+ 3.5)	1,571 (- 5.0)	1,678 (- 0.2)	2,145 (+ 2.2)	1,479 (- 4.3)
10～12月	2,091 (+ 3.9)	1,353 (+ 6.8)	738	2,116 (+ 3.8)	1,698 (+ 8.1)	1,683 (+ 0.2)	2,205 (+ 2.8)	1,619 (+ 9.5)
46年 9月	2,018 (- 0.6)	1,262 (+ 2.2)	756	2,052 (- 0.1)	1,555 (+ 0.6)	1,661 (+ 0.4)	2,148 (0)	1,539 (+ 8.2)
10月	2,038 (+ 1.0)	1,313 (+ 4.0)	725	2,082 (+ 1.5)	1,639 (+ 5.4)	1,622 (- 2.4)	2,158 (+ 0.4)	1,618 (+ 5.1)
11月	2,107 (+ 3.3)	1,411 (+ 7.5)	696	2,129 (+ 2.3)	1,740 (+ 6.1)	1,713 (+ 5.6)	2,233 (+ 3.5)	1,559 (- 3.6)
12月	2,127 (+ 1.0)	1,335 (- 5.4)	792	2,137 (+ 0.4)	1,716 (- 1.3)	1,713 (0)	2,226 (- 0.3)	1,679 (+ 7.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。  
3. 季節調整はセンサス局法(新季節指数)による。

343百万ドルの流出超(前月同92百万ドルの受超)となった。

貿易収支を季節調整後で見ると、輸出が依然前月比若干の増加となったうえ、輸入が米国西海岸港湾ストライキ中止に伴う入着増という特殊要因がほぼ消滅したことを主因にかなり減少したことから、792百万ドルと8月に続く大幅黒字(前月同696百万ドル)となった。

12月における長期資本収支の大幅払超は、本邦資本が円切り上げに伴う直接投資の集中(流出超73百万ドル、前月同18百万ドル)を主因に流出超幅を拡大した(270百万ドルの流出超)うえ、外国資本も証券投資の流出持続からかなりの流出超(55百万ドル)となったことによるものである。

金融勘定では短資の放出等により資産も増加したものの、輸入ユーザンスの増加を映じて外銀借入れが著増したため、為替銀行の対外ポジションは月中67百万ドル悪化し、月末には1,471百万ドルの負債超となった。この間、外貨準備高は399百万ドル増加し、月末には15,235百万ドルとなった。

12月の輸出(通関ベース)は、季節調整済み前月

比で+0.4%と小幅ながら増加し、原計数の前年同月比でも+21%と依然相当の増加を示した(もっとも、円建通関額の前年同月比は+7%)。このような輸出の堅調持続は、内需低迷による輸出圧力の増大による面がかなり大きいとみられる。品目別にみると、魚介類、繊維、機械、合板、はきもの等が前年水準を下回ったものの、合成繊維、化学製品、原動機、オートバイ等は高い伸びを示した。

地域別では、米国向けが若干増勢鈍化となったものの、中近東向け、中南米向けが大幅に増加したほか、このところ伸び悩んでいた共産圏向けもかなりの増加となった。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、12月横ばいのあと、1月は自動車、電気機械、一般機械が堅調を持続したため、+1.0%と小幅ながら増加した(原計数の前年同月比では+17%)。地域別にみると、欧州向けが増勢鈍化となったものの米国向け(前年同月比+23%)が増加を示し、アジア向けも堅調を持続した。

12月の輸入(通関ベース)は、季節調整済み前月

比で-1.3%(前月+6.1%)と減少を示し、原計数の前年同月比でも、+3%(前月+11%)の微増にとどまった。これは、10月、11月が米国港湾ストライキ中止に伴う入着増から高水準であったのに対し、当月はこうした特殊要因がほぼはく落したことによる。品目別にみると、大豆、非鉄金属が増加したものの、鉄鋼くず、非鉄金属鉱、石炭、機械機器、鉄鋼等が前年水準を下回っている。

12月の輸入承認は季節調整済み前月比で+7.7%(11月-3.6%)とかなりの増加を示し、前年同月比でも+14.8%(11月-1.8%)と急増した。これは航空機、核燃料等の集中を映じたもので、輸入の基調にとくに変化があったとはみられない。品目別にみると、食料品、綿花のほか前記事情を映じた機械等が増加したものの、鉄鉱石、鉄鋼く

### 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	46年			46年	
	4~6月	7~9月	10~12月	11月	12月
			月		
食料品	152	195	187	59	59
	(-5)	(-2)	(+14)	(+13)	(+5)
魚介類	73	102	94	28	33
	(+13)	(+8)	(-5)	(-6)	(-7)
繊維製品	714	720	793	224	310
	(+23)	(+16)	(+11)	(+10)	(+9)
綿織物	49	51	58	17	23
	(+7)	(+7)	(+6)	(+6)	(+2)
合繊維物	191	190	224	62	89
	(+30)	(+15)	(+17)	(+15)	(+14)
化学製品	372	385	389	114	158
	(+26)	(+26)	(+12)	(+9)	(+25)
非金属鉱物製品	96	102	109	34	39
	(+2)	(+7)	(+13)	(+19)	(+6)
金属製品	1,159	1,228	1,224	375	487
	(+23)	(+22)	(+18)	(+26)	(+15)
鉄鋼	905	960	935	289	372
	(+31)	(+28)	(+20)	(+30)	(+15)
機械機器	2,788	3,104	3,517	1,076	1,344
	(+32)	(+36)	(+34)	(+49)	(+30)
(船舶を除く)	2,401	2,628	2,998	902	1,144
	(+34)	(+32)	(+36)	(+40)	(+33)
テレビ	126	155	122	34	37
	(+44)	(+32)	(+13)	+2)	(+14)
ラジオ	182	223	235	70	84
	(+8)	(+13)	(+21)	(+24)	(+24)
自動車	557	602	783	234	303
	(+83)	(+67)	(+91)	(+88)	(+92)
船舶	386	476	519	174	201
	(+22)	(+71)	(+23)	(+112)	(+15)
光学機器	141	150	166	50	62
	(+14)	(+12)	(+21)	(+25)	(+22)
その他	585	619	581	184	217
	(+22)	(+16)	(+13)	(+26)	(+7)
合計	5,866	6,355	6,804	2,069	2,616
	(+26)	(+26)	(+24)	(+33)	(+21)
(船舶を除く)	5,479	5,879	6,285	1,895	2,416
	(+26)	(+23)	(+24)	(+28)	(+22)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

### 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	46年			46年	
	4~6月	7~9月	10~12月	11月	12月
			月		
食料品	689	664	858	310	293
	(+14)	(-1)	(+19)	(+35)	(+15)
小麦	80	61	113	58	28
	(+21)	(-34)	(+44)	(+104)	(+20)
とうもろこし	58	59	62	18	21
	(-25)	(-7)	(-21)	(-22)	(-27)
砂糖	89	65	69	34	19
	(+42)	(-14)	(-20)	(+32)	(-42)
原燃料	2,876	2,668	2,826	925	969
	(+9)	(-1)	(0)	(+7)	(+1)
羊毛	74	68	68	22	27
	(-21)	(-8)	(0)	(+6)	(+22)
綿花	145	114	122	39	42
	(+11)	(+3)	(+3)	(+6)	(+4)
鉄鉱石	354	327	331	111	112
	(+16)	(+5)	(+1)	(+4)	(+5)
鉄鋼くず	31	26	24	11	5
	(-69)	(-76)	(-63)	(-44)	(-78)
非鉄金属鉱	266	270	230	75	72
	(-3)	(0)	(-13)	(-12)	(-17)
大豆	93	97	123	33	43
	(+7)	(+11)	(+19)	(0)	(+20)
木材	382	306	384	124	144
	(-1)	(-27)	(-11)	(-5)	(0)
石炭	264	246	222	77	51
	(+6)	(-11)	(-25)	(-9)	(-48)
原油	756	781	829	272	306
	(+42)	(+44)	(+34)	(+45)	(+37)
化学製品	247	228	276	87	88
	(-3)	(-9)	(+7)	(+4)	(+9)
機械機器	660	516	588	198	181
	(+12)	(-7)	(-1)	(+7)	(-14)
鉄鋼	24	23	26	13	5
	(-68)	(-70)	(-41)	(-27)	(-47)
非鉄金属	189	188	172	46	71
	(-20)	(-21)	(-17)	(-31)	(+7)
その他	316	377	418	141	139
	(+12)	(+12)	(+27)	(+39)	(+20)
合計	5,001	4,664	5,163	1,720	1,747
	(+7)	(-3)	(+4)	(+11)	(+3)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

ず、非鉄金属鉱、化学製品等は前年水準を下回っている。

輸入素原料材在庫(季節調整済み、前月比)は、11月 +1.8%のあと、12月は横ばいとなったのに

対し、同消費は11月 +0.2%、12月 -0.6%と停滞したため、在庫率は、11月に 1.8 ポイント、12月に 0.6 ポイントそれぞれ増加して12月末には 114.9 (10月112.5、いずれも40年=100)となった。